令和７年度 江別市子どもの読書活動推進計画（第４期）推進状況報告書

計画期間	令和 6 年度～ 令和 10 年度

基本理念： 創造力を豊かなものとする読書活動を江別市のすべての子どもたちがあらゆる機会と場所において、自主的に行うことができるよう、家庭・地域・学校等と連携を進め、積極的にその環境整備を図ります。

基本目標１：社会全体での子どもの読書活動の推進

【基本目標１で目指すこと】
子どもの読書習慣を定着させ、自主的な読書活動を推進するためには、家庭・地域・学校等、社会全体で読書を推進する取組を進める必要があります。
そのためには、家庭・地域・学校等の役割を明確にするとともに、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作れるよう、関係機関や団体等と連携し協力しながら、乳幼児期からの子どもの発達の段階に応じて、多様な取組を進めていきます。

◆成果指標１　学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たり１０分以上読書する子どもの割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	R10年度	目標（R10年度）
小学校６年生 64.3%	（調査未実施）	56.6%				↗
中学校３年生 47.9%		49.0%				↗

指標：全国学力・学習状況調査

◆成果指標２　情報図書館における１８歳以下の利用者一人当たりの年間図書貸出冊数

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	R10年度	目標（R10年度）
4.4冊	4.3冊	4.2冊				↗

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標３　情報図書館が行う読み聞かせの参加人数

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	R10年度	目標（R10年度）
2,611人	2,375人	1,793人				↗

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標４　満１歳未満の乳児とその保護者を対象とした「親と子の絵本事業」における、対象家庭への訪問割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	R10年度	目標（R10年度）
96.5%	97.8%	96.2%				→

指標：江別市教育委員会調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

・情報図書館では、工夫を凝らした展示や特集コーナーの充実に加え、定例のおはなし会や「としょかんまつり」、「ぬいぐるみのおとまり会」などのイベントでの読み聞かせを積極的に実施しました。また、読書履歴を記録できる読書ノートの配布も行い、これらの取組を通じて、子どもが本に親しむ機会を広げ、読書への関心を高めるとともに、読書活動の推進に努めました。
・各学校においても、ボランティアによる読み聞かせや朝読書などを通じて、児童生徒がより多くの本に触れ、読書を身近に感じられるよう継続的に取組を進めました。
・成果指標１は、現状値（Ｒ４年度）に比べて小学校６年生がやや減少し、中学校３年生は微増となりました。小学生の減少については、スマートフォンやインターネットなどのデジタルメディア利用の増加や、他の娯楽活動の多様化が影響していると考えられます。中学生の微増については、引き続き動向を注視します。今後も動向を継続的に確認し、子どもたちの読書習慣の定着に向けた施策を検討します。
・成果指標２は、Ｒ６年度に比べるとほぼ横ばいで推移しており、子どもの読書活動が概ね習慣化されていると考えられます。今後も読書意欲の向上に向けた取組を継続し、貸出冊数の増加を図ります。
・成果指標３は、Ｒ６年度に比べて減少しました。これは、令和８年１月末から３月初めまでの臨時休館に伴い、開催数が減少したことが主な要因です。今後もＳＮＳなど多様な情報発信手段を活用し、子どもや保護者に広く情報を届けるとともに、手遊びや季節の工作など飽きずに楽しめる内容の工夫も引き続き継続していきます。
・成果指標４は、Ｒ６年度と同様に高い数値水準を推移し、各家庭への絵本配付を通して親子で本に親しむ環境を継続的に提供できました。次年度以降も情報図書館、各学校、保健センター及び子育て支援センターが連携し、読み聞かせなどを通じて子どもが本に触れ合う機会を広げていきます。また、引き続き親と子の絵本事業に取り組み、保護者が乳児期からの読書の重要性を理解する場を充実させていきます。
・今後も家庭、地域、学校などが連携し、子どもの読書活動を一層推進するとともに、その取組を着実に継続していきます。

基本目標２：子どもの学びを支える読書環境の整備

【基本目標２で目指すこと】
　全ての子どもが、どこに住んでいても、好きな本を手に取り、必要な資料を調べることができる、望ましい読書環境づくりを進める必要があります。
　そのためには、北海道、他市町村、学校・関係機関・団体等が相互に連携しながら、計画的に子どもの学びを支える読書環境の整備を進めていきます。

◆成果指標１　学校図書館における児童生徒一人当たりの年間図書貸出冊数

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ10年度	目標（Ｒ10年度）
22.4冊	22.9冊	22.0冊				→

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標２　学校図書館図書標準を達成している学校の割合

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ10年度	目標（Ｒ10年度）
76.0%	96.0%	96.0%				→

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標３　学校司書（巡回）、支援司書による学校への対応回数

現状値（Ｒ４年度）	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ10年度	目標（Ｒ10年度）
725回	1,033回	1,035回				→

指標：江別市教育委員会調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

・情報図書館では、巡回司書及び支援司書を引き続き各学校へ派遣し、朝読書や調べ学習などの読書活動を支援しました。巡回司書は計画的に学校を巡回し、支援司書は主に館内で学校からの選書要望に対応するなど、学校図書館の運営を継続的に支援しています。また、本の取り寄せを通じて北海道や他市町村と連携し、子どもの読書活動の充実に努めました。
・学校図書館では、図書標準の維持を目指し、引き続き蔵書整備を進めています。情報図書館でも児童書等の充実に努め、児童生徒が必要な本を手にしやすい環境づくりに取り組んでいます。
・成果指標１は、Ｒ６年度に比べるとほぼ横ばいの状況です。これは、各学校での読書活動の充実に加え、巡回司書や支援司書による選書支援や学校図書館の環境整備が、貸出冊数の維持につながっていると考えられますが、目標達成に向け児童生徒が継続して読書に親しめるよう学校図書館の環境や蔵書の充実を引き続き推進していきます。
・成果指標２は、Ｒ６年度と同様に高水準を維持しました。図書標準を達成している学校の割合は安定しており、計画的な蔵書整備の成果が表れています。なお、図書標準が未達成の学校においても、蔵書率は96.4%と高い水準を保っています。
・成果指標３は、Ｒ６年度に比べるとほぼ横ばいとなりました。これは、令和５年度から巡回司書が４名に増員され、派遣体制が強化されたことによる各学校への支援回数や内容の充実が継続しているためと考えられます。
・次年度以降も、子どもの知的好奇心や読書意欲を高めるため、情報図書館と学校図書館の蔵書整備を計画的に推進します。また、情報図書館と学校が連携して学校図書館の環境整備に努め、巡回司書及び支援司書による専門的支援を継続し、朝読書や調べ学習などの教育活動を支援していきます。